

島大生から境港市長への提言書

U・I ターンしたくなる境港へ
－5つの施策

令和2年3月

島根大学法文学部 行政学ゼミ

はじめに

私たち行政学ゼミは、必ずしも移住策について専門に学んでいるわけではありませんが、特に今年度、貴市との縁を頂き、UI ターンについて考える機会を得ました。この提言はその成果をまとめたものです。作成にあたっては、高校生とのワークショップ「模擬審査会—『こんなイケン?』」（以下、高校生 WS）と移住者とのワークショップ「You は何しに境港へ?」（以下、移住者 WS）で聞かれた生の声を積極的に取り入れ、また、「よそ者」かつ「若者」である学生目線を活かすよう努めました。既存の取組についての調査が不十分であったり、現実性に欠ける案が含まれていたりするかもしれませんが、ご一読頂き、今後の市政に活かしていただければ幸いです。

目次

1. 本編－5つの施策

No	5つの施策	具体案
I	境港の良さをもっと アピールしよう！	(1) ここをアピール！ (2) 効果的にアピールしよう！
II	「U ターンしたい！」と 思ってもらおう！	(1) 教えて！地域のこと (2) 知って！地元企業の魅力 (3) 発信！高校生のアイデア
III	移住前のサポートを 充実させよう！	(1) 来たらわかるよ！いいところ見つけてツアー (2) 「さかいみなと生活」を疑似体験！
IV	移住後の生活にも 安心を！	(1) 移住者同士をつなげよう！ (2) 移住者と地域住民をつなげよう！
V	境港を便利に！元気に！	(1) 乗り物のシェアリングで交通を便利に！ (2) 空港・基地周辺を元気に！

2. 資料－境港市「UI ターン施策」にかかる現状 Q&A

I 境港の良さをもっとアピールしよう！

1 現状

境港では、UI ターンを増やすために現在でも次のようなことが PR されている。子育てがしやすいこと、ある分譲地で定期借地権制度が利用できること、美味しい魚とお酒があること、3つの港（境港・境漁港・米子鬼太郎空港）を有する充実した社会基盤があることなど、である。こういった情報を発信する手段としては、主にホームページやパンフレットが使用されている。

2 課題

しかし、私たちの目からみて、また、移住者の声にも見られるように、そういった魅力が外部に十分に伝わってないように思われる。

移住者の声	<ul style="list-style-type: none">・いろいろな人が来られるようにアプローチをかけていくべき。・呼び込む力が弱い。積極的ではない。
-------	--

そもそも、境港には他にも多くの特長がある。例えば、地価が安いこと¹、山陰の都市に近いこと、コンパクトなまちであること²などである。加えて、PRの仕方自体にも改善の余地があるのではないか。例えば、もっと UI ターン者へのメリットを絞り込むとよいだろう。また、どういった人に適した町なのかといった視点を加えることで、移住のイメージがよりしやすくなるのではないだろうか。

3 具体案

(1) ここをアピール！

① 「コスパ」がよい

境港の周辺には松江市、米子市といった山陰の都市が存在する。松江市までは自動車で30分ほど、米子市は隣接していることから、地理的に利便性が高い。また、他地域と比較すると、土地平均価格が住宅地、商業地ともに安価であることから、経済的にも定住に必要な諸費用が安く抑えることができる。

¹ 国土交通省の2019年都道府県地価調査では、住宅地は13900円/㎡(815市区中693位)、商業地は18600円/㎡(810市区中768位)と、全国的に見ても安価である。

² 境港市の総面積は29.11㎡と小規模の都市であり、そこに生活に必要な機能が集約している。

② 高齢者に優しい

境港は土地が平坦で、面積も小さくコンパクトなまちである。そのため移動が容易であることから、身体的な負担や移動コストが少なく済むと考えられる。また、実際に、移住者WSのアンケートにも、「老人にやさしい（住みやすい町）」、「境港市民は優しい人が多い！！」といった声があったところである。

(2) 効果的にアピールしよう！

① キャッチコピーを作る

キャッチコピーを作り、PRすることで、境港を知らない人にも認知されやすくなると考える。例えば、「コスパの良いまち」、「体と財布にやさしいまち」、「老後に余裕をもって暮らせるまち」などが考えられる。また、キャッチコピーづくりに、若者、女性、移住者などが関わるとなおいだろう。

② 伝わりやすい情報発信

YouTube や Instagram など、大手の配信サービスや SNS を利用し、より多くの人に情報が伝わるようにすることを提案する。配信サービスや SNS を利用することで、UI ターン者向けの施策の紹介や移住者の声、町の様子、特徴などを伝えやすくなり、移住を考えている人に実際の暮らしのイメージを持ってもらいやすくなると考える。そのほかに、インフルエンサーの起用などをすることで、興味を持ってもらいやすくなると考える。

【参考—Love City 松江】



【出典】 <https://lovematsue.city/index.html>

II 「Uターンしたい！」と思ってもらおう！

1 現状

境港ではUターン促進に向けていくつかの取組をしている。代表的なものとしては、「境港市総合戦略」で地元就職支援など若者の定住促進施策や子どもを対象とした郷土愛づくりへの取組みをうたっている。また、中学校が取り組んでいる「コミュニティ・スクール」では、地域の方がゲストティーチャーとして美術や家庭科の学習に参加する等、学校と地域が一体となって子どもの教育にあたることを推進している。境高校が取り組んでいる「境考学」では、境港のくらしや地域おこし等をテーマに高校生が探究活動に取り組んでおり、調査の際市役所等に出かけ聞き取りを行うなど地域との関わりを持っている。

2 課題

高校生 WS では、以下のような声が聞かれた。

高校生の声	・自分が暮らしたいと思う町とは少し違う。 ・中高生が「遊び」として楽しめる場がない。
-------	---

ここからは、高校生には自分なりの求める地元像があるということがわかる。にもかかわらず、外に流出する傾向にあるのは、その実現にあたって、地元を変えようとするのではなく、求めるものがある地域へ自分が移動するという選択をとるからではないか。そうだとすれば、やはり、ここ境港で、暮らしやすいまちを自分で創っていくという意識を持ってもらうことが必要である。

その点、以下のような WS 後の意見が参考になるのではないか。

高校生の声	・今までの考えや体験で境港について考えていたが、今日話を聞いて、まず自分が関わっていくことで、より考えも広がっていくと思った。 ・自分が思いこんでいた境港とは少し違う境港に気づけて良かった。
-------	--

つまり、ここからは、自分とは違う見方や考え方に触れたことにより、当たり前だと思っていたことが良さであることに気づいたり、漠然としたイメージではなく実際の境港の良さに気づいたりしたことがわかる。すなわち、自分とは違う意見に触れる機会を増やすことが必要であると考えられる。

3 具体案

(1) 教えて！地域のこと

① 地域の人による授業「境港」

コミュニティ・スクールを活用し、境港在住の様々な人に地元やその人自身について授業してもらおうということを提案する。特に、UI ターン者には他地域と比較しながら話をし

でもらうことで、境港しか知らない多くの中学生は新たな気づきを得られるのではない
か。こういった授業を通じ、人々の思いが子ども達に受け継がれれば、仮にいったん外に
出たとしても、いずれ戻ってきてももらえるのではないだろうか。

② 「境考学」で地域との関わりを持つ

高校生は地域の人と関わる機会が少なく、卒業後は進学などで地元を離れる生徒が多
い。そこで、既に検討されているようだが、境高校での探究活動「境考学」において、地
域との関わりを増やすことを提案する。調査にあたっては、公的機関や民間企業、地域の
人々など、幅広い立場の人に話を聞きに行くはずである。また、調査を複数回課すなり、
解決策の検討に地域の人からのアドバイスを義務づけるなりすれば、地域との関わりもよ
り深まるであろう。

(2) 知って！地元企業の魅力

中高生対象に合同企業説明会の開催を提案する。合同企業説明会では、一会場に多くの
企業がブースを設け、参加者がそのブースを回って多くの企業の説明を聞くことができ
る。中高生は、実際に働いている人から、収入や仕事以外の視点（何のため、誰のため、
誰と…等）や地元で暮らす利点（友人や家族との関係、子育てにかかる親の支援等）など、
境港の魅力を学ぶであろう。なお、企業見学会も一定の意味があるが、そこでは多くの企
業をまとめてみるできない、合同説明会はその限界を埋め、様々な企業があるとい
うことを実感してもらえするという利点がある。

(3) 発信！高校生のアイデア

高校生による探究活動の成果を発信することを提案する。このことは既に検討されてい
るようだが、探究の成果や課題解決のために自らが考えたアイデアを発表する場を設け
ることにより、自らが地域を創っていくという意識を高めたり、地域の一員として境港市
に住みたいと思ってもらえたりするのではないかと考える。成果の発信を、市だけでな
く、地域の方や、企業など多様な方に聞いてもらうことで、多様な方からのフィードバッ
クを受けることができる。このことは、自分とは違う意見に触れる機会を増やすことにも
つながると考える。

Ⅲ 移住前のサポートを充実させよう！

1 現状

境港では現在、大きく三つの移住推進施策が行われている。第一は、空き家バンク。これは、賃貸・売却希望のある空き家を募集・登録し、移住希望者に情報提供するものである。第二は、定期借地権制度の活用。利用者は土地を購入しなくとも、月々の土地賃料を支払うことで、境港市から長期間借り受けることができる。第三は、就農支援住宅である。IJU ターンで市内に居住する認定新規就農者に対して、家賃、または空き家の修繕費等の一部を補助している。

2 課題

一方、他市の取組も参考にすると、大きく分けて2つの課題が見られる。

まず、移住前に境港の良さにふれる制度が少ないため、その魅力が知られておらず、移住先として候補になりにくいと考える。例えば、移住者WSでは、移住“後”に気づいた良さとして、海も山もありのんびり過ごせるところ、人が優しいところ、空気のきれいさなど、が挙がっていた。このような良さが、移住する“前”に、広く知られるとよいだろう。少しでも触れられるような制度が必要である。

次に、以上のような良さは、実際に住んでみないとわからないことでもある。とはいえ、仮にその良さを十分に理解していたとしても、新しい土地での新しい生活には、誰もが不安を感じる。いきなり本格的な移住ではハードルが高い。そこで、移住前に、境港での生活を体験できるような仕組みがあるとよいと考える。

移住者の声	・移住前、グーグルマップで見ると何もなかったもので、仕方ないかとマイナスに感じていたが、住んでみると海あり山ありでのんびり過ごせるのはいいと思った。 ・移住前は名前くらいしか分からなかったが、住んでみると優しい人が多かった。
-------	---

3 具体案

(1) 来たらわかるよ！いいところ見つけてツアー

移住を検討している市外在住者に対して、農作業体験やまちの散策をするなどして、境港の風土や気候など、良さを感じられるツアーの企画を提案する。これは一般的に「暮らし体験」と呼ばれ、全国各地で行われている。例えば、島根県では「しまね田舎ツーリズム」と題して、農山漁村で地元の人との交流を通して、農山漁村体験やその地域の自然や

文化、くらしに触れる機会を提供している。具体的には、「大自然と文化を巡る隠岐ジオパークツアー」や「ワイワイ楽しく野花で苔玉づくり」など、島根県の自然を生かした、そこでしかできない体験となっている。境港は、カニ感謝祭やみなと祭りなど、珍しい祭りが多くあるので、水木しげるロードや夢みなと公園などの観光地を巡るだけでなく、祭りの時期にツアーを開催し参加してもらうことで、より多くの魅力を伝えたら良いのではないかと考える。

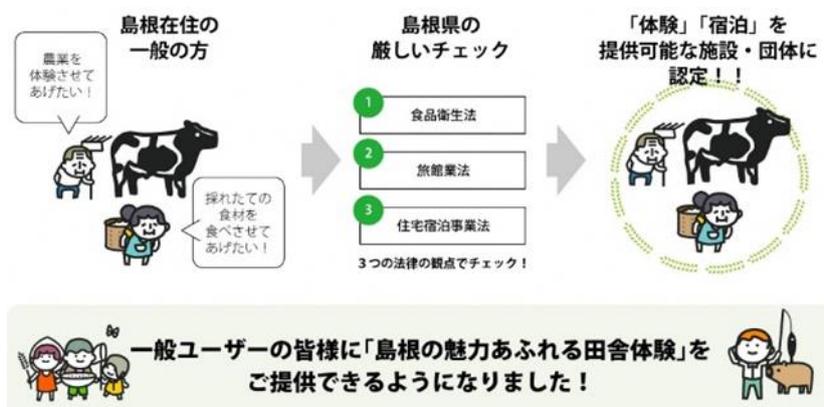
(2) 「さかいみなと生活」を疑似体験！

「お試し住宅」を取り入れ、移住前に住居を提供し、境港での日常生活を体験できる制度を提案する。この利点として、地元の人との交流ができるほか、移住するための住宅や職探しの拠点としても利用できることが挙げられる。既に各地での例もある。例えば、倉吉市では、4か所の「お試し住宅」があり、山間部や街なか、温泉地などから、利用者の希望する場所を選ぶことができる。この運営は集落住民が有志で行っており、地域をあげて移住者の受け入れをサポートする仕組みとなっている。境港でも、移住前に一度、住むことができれば、境港での生活をイメージでき、移住へのハードルも低くなると考える。

また、体験制度の中に、移住者の方や地域の方との交流会など、地元の方と関われる機会を設けることで、境港市民の、とても穏やかで温かい、という人柄の良さも伝えることができると思う。

【参考一「しまね田舎ツーリズム」の仕組み】

もともとは、農業体験などをした後で、採れたものを食事に出してもらいたい、民家に泊ってみたいという要望に対しては、法律に基づく手続きが必要であるため、簡単には対応できなかった。そこで、島根県では、「しまね田舎ツーリズム」として、一定の条件を遵守することを前提に、農山漁村の体験に関わる調理や民泊の提供ができるようにした。



【出典】 <https://www.oideyo-shimane.jp/about/2402>

IV 移住後の生活にも安心を！

1 現状

境港市では、子育て支援や「定期借地権制度」の活用などにより移住者促進に一定の効果をあげてきた。例えば、平成 28 年度時点では 149 人もの移住者を招くことに成功している。この数字は鳥取県内市町村別でみると、第 4 位である。

2 課題

一方で、1 位の鳥取市や 2 位の米子市と比べると、およそ 300 人近い差が存在する。勿論、そもそもの規模も違えば様々な条件も異なる。しかし、やはりこの差は大きい。移住の妨げになっている要因は何か。ここでは、移住者 WS で出た次の声に注目したい。

移住者の声	・外から移住してくる人にとっては様々な情報を得にくい。 ・家族がいれば、人間関係の基盤があるが、I ターンする人にとってはゼロからのスタートなので不安が大きい
-------	--

このように、移住者、特に I ターン者は地縁がない場合が多いだろうし、UI 問わず、移住後の生活には不安も多くあるだろう。また、移住後、うまく地域とのつながりが持てなければ、必要な情報さえ得られないということにもなる。したがって、きてもらうだけでなく、その後も充実したサポートを続けていくことが必要である。

3 具体案

(1) 移住者同士をつなげよう！

移住者同士のネットワークをつくることを提案する。そうすることで、既に移住した人には、生活するうえでの一助となるであろうし、移住を希望する人の不安軽減にもつながるだろう。当事者の側から自発的にできることが望ましいだろうが、そうでなければ市が主導すべきである。それにより、かえって安心感が得られることも期待できる。

このような移住者同士のネットワーク作りを鳥取県内移住者数第 2 位の米子市では、「ほわっと米子応援隊」という任意団体が中心となって、和菓子作りやブルーベリー摘みなどといった活動をしている。市は、その活動を HP で紹介などしている。

(2) 移住者と地域住民をつなげよう！

移住者同士のみならず、彼・彼女たちと地域住民とのつながりも重要である。先の移住者ネットワークが主体となってもいいであろうし、町内会や自治会、公民館などからの働きかけがあってよい。市役所にはその仲介を期待したい。

IV 境港を便利に！元気に！

1 現状

ここでは、まちの便利さや賑わいという視点から、公共交通と自衛隊基地を中心にみておく。まず、境港市の公共交通機関は電車（JR 境線）とバスがある。それは境港市全体にいきわたっており公共交通機関の役割を果たしているといえる。さらに、市が運営する「はまる一ぷばす」は区間にかかわらず 100 円で利用することができる。しかし、境港駅発で米子方面への電車のダイヤは 1 時間に 1 本ほどで、人の多い時間で 2 本である。またバスについても境港駅前から出発し、米子鬼太郎空港へ向かう便についても 1 時間に 1 本ほどで、多い時間でも 3 本の便である。

次に、自衛隊基地についてであるが、基地の機能を維持するため約 1000 名の隊員が昼夜を問わず働いている。勿論、家族が基地周辺に住んでいる隊員もいる。航空祭など、地域との関わりも一定程度みられる。

2 課題

まず、公共交通機関について、移住者から以下のような意見があった。これらの意見から 2 つの課題がみられる。まず、便自体の少なさがある。もう一つは、自分の希望するところまで移動できないことである。このように、境港市の交通に求められているものは、手軽さ、自由さであると考えられる。

移住者の声	<ul style="list-style-type: none">・ JR 境線は便利でない（バスと接続していない）。・ お酒を飲んで帰るのに不便（はまる一ぷバス 19 時頃で終わり）・ 車がなくても便利にしてほしい
-------	---

次に、自衛隊基地については以下のような意見があった。ここからは、定期的に多くの人を訪れているにもかかわらず、そのチャンスを十分に活かせていないことがわかる。例えば、隊員やその家族が楽しめる飲食店や娯楽施設などの環境の整備が不十分である。

移住者の声	<ul style="list-style-type: none">・ お店が少ない。・ 自衛隊と海保がある（定期的に若い人が入ってくる）。・ 自衛隊・交通など素材があるのに生かせていない。
-------	---

3 具体案

(1) 乗り物のシェアリングで交通を便利に！

交通を便利にするための取組として、乗り物のシェアリングを提案する。すなわち、共用

の自転車や車などをシェアすることで安価でフレキシブルな移動を可能にするわけである。境港は平坦な道が多く、コンパクトなまちであるため、金沢市が取り組んでいるような自転車シェアリングが特に適しているのではないか。もちろん、米子市が試験的に取り組んでいる「コミュニティカーシェアリング」も参考になる。公共交通の不十分さを補うためのものであるが、ボランティアによる運転に頼るところが大きい。そのため、この取組みを行うにあたっては、市が運営をする、もしくは運営者に対して補助金の交付など、安定してサービスを供給できる仕組みづくりが必要だと考える。

(2) 空港・基地周辺を元気に！

自衛官やその家族に移住を考えてもらうために、自衛隊美保基地周辺に境港の良さに触れられるような場づくりに取り組むことを提案する。

美保基地と同様に自衛隊と民間の共用の飛行場である千歳飛行場及び新千歳空港では、空港そのものがエンターテイメント施設となっている。お土産などを販売している売店はもちろんのこと、映画館や温泉、そのほか、子供たちが楽しめるようなキャラクターを扱った施設も充実しており、多くの人が楽しめるようになっている。楽しむことを目的として、空港を訪れる地元住民もいるほどである。

勿論、土地や予算等の制約もあり、ハードの整備はそう簡単にはいかないだろう。そのため、ソフト（ハート？）の充実も忘れてはならない。航空祭など基地主催のイベントに地域住民が参加するだけでなく、逆に、地域の活動やイベント等で、隊員等をおもてなししてはどうか。そうすることで、境港市民の人柄や温かさを伝えられると考える。

【参考－金沢市の公共シェアサイクル「まちなり」について】

「まちなり」は、市内にあるサイクルポートならば、どこでも電動自転車の貸出と返却ができるサービス。月額会員で1,500円/月のプランと1回150円のプラン、1日乗り放題で1,300円のプランがある。



【出典】 <https://www.machi-nori.jp/>

資料－境港市「UI ターン施策」にかかる現状 Q&A

この提言をまとめるにあたり、境港市役所には様々な問い合わせをさせていただきました。そのやりとり自体、貴重な情報源と考えましたので、ここに掲載することといたします。ご快諾いただいた市役所には記して謝意を表したいと思います。

1. 中学校でのコミュニティ・スクールに関して、地域のどのような方が現在参加されているのか。
 - ・地域在住の和菓子職人（美術の粘土による彫像の学習にGTとして参加）
 - ・学習支援ボランティア（家庭科のアジをさばいて調理する学習にGTとして参加）
 - ・その他、地域貢献ということで、各種ボランティアを行っている。
（読書祭りへの参画、市民運動会、公民館祭。各地区での清掃等）
2. 境高校で行われている探究活動「境考学」において、地域の人との関りがあるかどうか。また、探究の成果を市に発表するということをされているかどうか。
 - ①地域との関わり状況
今年度実施は、市役所、小中学校、保育所、幼稚園、水産振興協会、観光協会、幸朋苑
※ 来年度はもう少し範囲（民間会社、個人の方等）を広げていきたい。
 - ②活動成果
今年度はクラス発表のみ。
※当初は市への活動成果報告も計画していたが、日程や報告自体がうまくまとまらなかったこと等で断念。来年度の課題。
3. 中学校での修学旅行の目的に「他地域との比較」という視点も明確に組み込むということをされているかどうか。

修学旅行全般で、自分が住んでいる地域との比較は行われている。特にエキスカーション
4. 授業や学校給食での地域学習があるかどうか。

食育、社会科、生活科、総合的な学習の中で行われている。市教委作成の社会科副読本あり。
5. 中・高生向けの企業説明会のような、中・高生が企業と交流できる場があるかどうか。
 - ・中学校に関しては、説明会という形はとっていないが、ワクワク職場体験やCHA³プログラム等で企業の方から学ぶ機会がある。
 - ・高校生に関しては、市の事業では、「オープンカンパニーin 境港」と題し、県内企業の見学会を今年度初めて開催する予定であったが、コロナの関係で中止となった。卒業後の就職を考えている高校1・2年生を対象として、地元定着率の向上や企業とのミスマッチ低減が目的。

6. 移住者ネットワークがあるかどうか
なし
7. 境港市への移住の際の支援金の対象者について
東京圏以外からの移住者への支援金はなし。また、東京圏からの移住者への支援金についても、条件があり、東京圏からの移住者全てが対象となるわけではない(対象者についてはHPを参照)。
8. 県の「暮らし体験」と「お試し住宅」の制度を利用しているかどうか。
利用していない。
9. 境港市の開発・振興について、開発していくエリアと穏やかさを保つエリアというように、エリアに分けて開発されているかどうか。
本市では市域を、市街化を促進する区域(市街化区域)と、市街化を抑制する区域(市街化調整区域)とに線引きしており、この市街化区域において、別紙の総括図のように、住居系の地域、商業系の地域、工業系の地域を定め、建築物の用途を制限している。
また、境港市都市計画マスタープランでは市内を4つの地域に分け、それぞれの地域のまちづくりの方針を定めている。(令和2年度見直し予定)
10. 子育て以外に重点的にPRしているものはあるかどうか。
・夕日ヶ丘地区の定期借地権制度
100坪の土地を一月5,000円で51年間借りることができる制度。土地代が浮いた分、こだわりのマイホームを建てることできる。子育て世帯や市外者にも人気。
・創業支援補助金
市内で新たに創業する人に補助金を交付。来年度以降は、補助額が下がる代わりに対象業種を拡大し、移住者については、上乗せ加算し交付する予定。
・伯州綿栽培事業
境港の特産「伯州綿」の栽培・商品開発等に取り組む「地域おこし協力隊」を募集。令和2年度は目標人数の確保ができたため募集を停止。
移住施策以外
・水木しげるロードのリニューアル・美味しい魚とお酒。
夜も楽しめる滞在型の観光地。各店舗自慢の海鮮丼
・3つの港(境港・境漁港・米子鬼太郎空港)を有する充実した社会基盤

島大生から境港市長への提言書「U・Iターンしたくなる境港へー5つの施策」

2020年3月27日

編集 島根大学法文学部・行政学ゼミ

M2：古川久瑠実

4年：糸川諒 平山智之 藤井仁人 古山義久 松浦克仁 室井樹

3年：畔田南都美 幸野靖子（編集長） 坂本裕樹 鳥井夏斗 森上和也

監修 每熊浩一（島根大学法文学部教授）

住所 〒690-8504 松江市西川津町 1060 島根大学法文学部（每熊研究室）

Tel & Fax 0852-32-6158 E-mail : zzkuma@soc.shimane-u.ac.jp

FaceBook : <https://www.facebook.com/shimadaigyouseigakuzemi/>
